
ちえんじThaキョン

ストラップ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちえんじThaキョン

【Nコード】

N7567G

【作者名】

ストラップ

【あらすじ】

ちえんじー俺はいつものようにSOS団アジトへと向かっていた。それはなんの前ぶれもなくやってきた。めずらしくも俺が一番乗りだった。いつものように俺のイスにすわらず団長席に座りPCの電源を点けたそれがまずかった。

キヨンが > (前書き)

ハルヒ系です。

性転換が混ざっているので注意。

キヨング >

ちえんじーキヨンジ登場

俺はいつものようにSOS団アジトへと向かっていたそれはなんの前ぶれもなくやってきた。めずらしくも俺が一番乗りだった。いつものように俺のイスにすわらず団長席に座りPCの電源を点けた。ひさしぶりにm i k u r u フォルダを拝見しよう。OSを立ち上げ途中の暗い画面を見ていた時小泉が入ってきてやがった。ただいつものむかつくスマイルでわなくすごく恐ろしい顔になっている。

「貴女はだれですか」

「は？小泉なにお言っている。俺をわすれたのか。」

ハルヒが考えたつまらんどつきりか。ただなんだかすごい違和感を感じるのだから。椅子から立ち上がったらその違和感の正体がわかった。女子の制服を着ていた。いつもより小泉がでかく見えた。

「おい小泉、俺はどうなっている」

小泉が困った顔になっている。と丁度よく長門がはいてきた。

「小泉一樹彼女は彼」

「彼とはキヨングくんのことですか。」

「そう」

「長門もしかして俺は女になったのか」

「そう。5分30秒前から貴女は女になっている。」

だとちょうどパソコンを点けたときだな。なあ長門俺を今すぐに元に戻してほしんだができるか？

「今すぐには不可能なものがある。あなたの家の猫。」

「長門さんもしかして珪素構造生命体共生型情報生命素子ですか。」

「厳密に言えば違うeve系珪素構造生命体共存型情報生命素子。」

「イブ系だから彼は女になったのですね。」

そんな単純なものなのか。というか別にシャミセンでなくとも小泉

や俺の中で情報素子を凍結してもいいじゃないのか？

「それは推奨しない。」
なぜだ？

「凍結をおこなっても有機生命体の女性化は防げない。」
そうか。ただなぜシャミセンなんだあいつもオスだぞ。

「あのねこはAdam系珪素構造生命体共存型情報生命素子が凍結してある。凍結したeve系珪素構造生命体共存型情報生命素子をいれることにより打ち消しあい飽和状態になる。大丈夫。」

「ちえんじ2へ続く。」

キヨンが > (後書き)

読んでくれた方ありがとうございます。

もどろれ(前書き)

性転換があります。
後篇です

もどれ

いま小泉の作戦でシャミセンを待っている。

作戦内容は

- 1 機関がシャミセンを連れてくる。
 - 2 ハルヒを部室に近づかないようにするため生徒会長がハルヒを呼び出しいちゃもんをつけてもらい時間稼ぎをもらう。が
 - 3 シャミセンとうちゃくごすぐに長門の力で元に戻す。
- 以上しかしハルヒの力が関係していないで非常事態になることが多いか雪山やルーソーの件や朝比奈さんの誘拐など・・・
- など考えていると会長にハルヒを呼び出すように言いに行った、小泉が戻ってきた大きな鏡を連れて。

小泉、それはなんだ

「見ての通り鏡ですよ。」

そんなのわっかている。それを何に使うんだ。

「あなたは今の姿を見たくないのですか。キヨン子ちゃん。」

そんな呼び方をするな。

「キヨン子」

ぼそりと長門が何かいたよな気がするがそれを無視して自分がどんな姿なのか気になるので鏡の前に立つとそこにわけこうかわいいかおをした女の子が立っていた。

「これが俺なのか」

「そうです」

背は長門より少し高く、髪型はポニーテール、胸は長門く自分くハルヒ、手も小さくなっている。なぜかカーディガンを羽織っている。一瞬このままのほうがいいかと思ったのを誰が攻めよう。

「しかしあなたは鈍いですね。恋愛・身体の変化に気がつかないなんて。」

どうせ鈍いですよ。

と言い返してたらになり窓がわwww

もうすこしで窓を割った人物ひぶつかりそうになった。

そこにはシャミセンを持った森さんがいた。なにやているんですか。すみません。涼宮さんがこちらにむつかている。ので仕方がなく。

それはまずい。長門さっそくだが元に戻してくれ。

「了解」

とルーソーのときのようにシャミセンの額と俺の額をくつつけた。

と同時に長門はあの早口呪文を唱えた。にみるみる元にもどっていった。

バンとハルヒがドアを蹴って入ってきた時には何事もなかったようにすこせた。

追記

次の日小泉が女になっていたのは別の話。

もどくれ(後書き)

読んでくれた方々ありがとう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7567g/>

ちえんじThaキョン

2010年10月9日21時06分発行